

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第650号 2024年4月14日

鈴木真主任司祭主日ミサ説教

2024年1月28日 年間第4主日 B年
マルコ福音書 1章21～28節



司式される鈴木師

福音書には、イエスが〈汚れた霊を追い出す〉シーンがよく出てきます。共通しているのは、必ず〈汚れた霊〉の方から反応する、ということです。しかも、きょうの箇所のようにイエスの紹介までしてくれる。これは当時の悪魔祓いの形式でもあるそうで、相手の名前を正確に言うことで、相手の力をそぐ、というものだそうですが…。

わたしがいつも感じるのは、福音が示される時、必ずそれに反する要素が明らかにされる、ということです。神さまの目から見て何が正しいのか、正しくないのか。わたしたちは、この世の価値観の中で、多分に「グレー」な部分をゆるしているように思います。「まあ、そこはいいじゃないですか」といったように。でも神さまから見ると、「グレー」はあり得ないのですね。白か黒か、どちらか。あるいは、わたしたちは「わかってはいるけど…」と済ますこ

とも多いですが、これも神さまからすれば「わかっているならやりなさい」ということになるのでしょう。ポイントは、それがすべて神さまの愛、つまり誰かの救いにつながっている、ということです。

ヘブライ書の4章に、次のような言葉があります。「神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな諸刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができる」

神さまからの、そのようなメッセージに頼りたいと思います。